

令和8年度第1回

和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体的整備に向けた検討会「議事概要」

日 時	令和8年6月8日（月）18:00～19:30			
場 所	ちよだパークサイドプラザ7階会議室			
出席者	所属			出席者
委 員	施設関係者	小学校・こども園	和泉小学校	校長
			学校運営協議会	（欠席）
			いずみこども園	園長
	地域関係者	町会	秋葉原東部町会連合会	会長
			地元町会（神田和泉町町会）	会長
		園児・児童・青少年	和泉小学校 PTA	副会長
			いずみこども園 PTA	会長
			青少年委員	委員
		代替園庭利用	アイグラン保育園東神田	（欠席）
	隣接関係者	災害拠点病院緊急医療救護所	三井記念病院	事務長
	学識経験者	アドバイザー（地域デザイン・建築計画）	日本大学理工学部教授	山中 新太郎
	千代田区	公園管理者	環境まちづくり部 環境まちづくり総務課長	神原 佳弘
			環境まちづくり部 道路公園課長	村田 啓介
		教育委員会	子ども部 教育担当部長	○中田 治子

○ 進行役（モデレーター）

オブザーバー	いずみこどもプラザ館長代理、和泉橋出張所長、子どもの居場所づくり担当課長		
事務局	千代田区教育委員会事務局 子ども部 子ども施設課		
コンサルタント	株式会社都市環境研究所（URDI）、ラーバンデザインオフィス合同会社（RUDO）		
次 第	○前回検討会の振り返りについて ○一体的整備基本計画（素案）について ○今後のスケジュールについて		
資 料	資料 1	第4回和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体的整備に向けた検討会意見まとめ	
	資料 2	和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体的整備構想（令和8年2月千代田区）	
	資料 3	和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体的整備基本計画（素案）	
	参考資料 1	第4回和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体的整備に向けた検討会「議事概要」	
	参考資料 2	和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体的整備に向けた検討会設置要綱	
	参考資料 3	第3回オープンハウス型地域説明会のお知らせ	

意見等要旨

前回検討会の振り返り	・ 前回検討会の開催概要と主な意見（資料1）について、事務局より説明。 ・ 前回の検討会終了後、メールにて追加の意見をお送りしたが、その内容は本資料に
------------	--

返り	反映されているか。 →いただいた追加意見は、現時点では本資料に反映できていない。内容を整理したうえで、次回の検討会で共有する。（区事務局）
一体的整備について	・和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体的整備基本計画（素案）（資料3）について、事務局より説明。 ・教室数については、将来的な児童の増加も見込み、余裕を持って確保しておくことが望ましい。 ・校庭の芝生は直射日光を受けると蓄熱し、表面温度がかなり高くなる。校庭整備にあたっては、暑さ対策を十分に考慮してほしい。 ・こども園の保育室は1階・2階に分かれて配置されているが、できる限り1階にまとめていただきたい。1階の専用園庭は乳児の保育室に面して配置されているものの、幼児が利用できる屋外スペースが確保されていない。公園を園庭のように利用できれば理想的だが、公園は様々な利用者が同時に使う空間であり、かつこども園で占有できる施設でもないため、自由度高く活用することは難しいのが実情である。 →公園と施設の一体的整備においては、公園のタイムシェアなど、より柔軟に使いこなすための管理運営のあり方についても合わせて検討することが重要である。設計発注時の資料として、区画や規模を具体的に示さないとしても、運営上の工夫の可能性も含めて、設計者がアイデアを検討できるような示し方になっているとよい。（山中教授） →お茶の水小学校では、隣接する錦華公園との一体利用を進めており、参考になるのではないかと聞いている。ランニングやマラソンなど公園と一体的に利用する構想があったと聞いている。 ・他の施設整備に比べると事業期間が長いように感じるが、短くはならないのか。 →区内の施設整備は確かに数年で完了しているが、施工者ヒアリングによると既存施設の地下躯体の撤去に時間を要するため、通常よりも時間がかかると聞いている。近年は働き方改革もあり、現場作業の日時が限られることも想定スケジュールが伸びている要因だろう。（区事務局・URDI） ・整備の完成時期がまだ明確になっていない。周辺の関係者にとって施設・公園の完成時期は大きな関心事である。自分の子どもが在学中に関わるかどうかにも左右されるため、具体的な年次でスケジュールを示してほしい。多少の変更が生じることはやむを得ないが、議論を進めやすくするためにも目標年次は設定してほしい。 →施工者ヒアリングを踏まえた上で、現時点で最短でも必要と想定される期間をスケジュールとして示している。これまで、都市計画変更手続き含め、不確定要素もあることから、具体的な年次の表記を避けてきた経緯があるが、目標年次を今後お示しできるよう、庁内で調整を進める。（区事務局） ・和泉公園の工事期間中、区内の小学生は主に佐久間公園を利用することになるだろう。佐久間公園の喫煙スペースや防災倉庫については、利用環境の改善を工夫してほしい。台東区との区境にある和泉町ポンプ所跡地まで子どもたちが足を運ぶイメージは湧きにくい。 →じゃぶじゃぶ池のような、子どもたちにとって行く目的となる機能をポンプ所跡地に設けることで、利用を促すことは考えられる。
今後のスケジュールについて	・今後のスケジュール（資料3）、第3回オープンハウス型地域説明会の開催概要（参考資料3）について、事務局より説明。

て	
総括（日本大学理工学部教授）	・現在の施設は、都心型の教育複合施設として全国でも先駆け的な事例の一つである。今回、次のステージとして建て替えを行うことになるが、全国から注目される事例になると考える。（山中教授） ・今回の整備にあたっては、関係者の立場が多岐にわたるため、それぞれが「同じ船に乗る」という意識を持つことが重要である。全体最適と各々の立場における最適性をいかに win-win の関係として成立させるかが鍵であり、それらをどのように設計者に伝えるかがポイントとなる。（山中教授） ・本日出された意見の中でも時間軸は非常に重要だと思う。関係者が、どの段階で本整備や管理運営のあり方の議論に関わることになるのか把握できるよう区には目標年次をしっかりと示してほしい。（山中教授） ・今後、設計者選定に向けた準備を進めていくことになるが、設計者に考えさせるような言葉やヒントを基本計画や要求水準に盛り込んでおくことが重要である。限られた敷地条件の中で 100 点満点の対応を求めるというよりは、70 点でも良いので設計者が取捨選択しながら運営上の工夫も含めて考えることを促せると良い。（山中教授）

以上